

2024年度 学生の海外派遣事業
【コミュニケーション学部国際コミュニケーション学科】

2025.3.5

派遣の目的	名称	概要(教育研究内容等)	実施方法	実施期間(出発～帰国)	実施国	実施先	参加人数	認定単位数
人と商品と情報が世界規模で移動する時代。環境の変化を深く理解し、自分とは異なる言語・文化圏で育ってきた人々とコミュニケーションし、働くことのできる力が求められます。国際コミュニケーション学科では、英語運用能力と異文化対応能力、さらにメディアを利用した表現・発信力を身につけることができます。	海外短期研修	語学学習及び異文化理解の成果に単位を付与する研修実際にホームステイファミリーと暮らすことや語学研修に参加することにより英語の4技能の向上とアメリカ文化についての理解を深めます	現地派遣	2025年2月2日(日)～2月22日(土)	フィリピン	エンデランカレッジ	21名	2
				2024年8月13日(火)～9月16日(月)	アメリカ	サンディエゴ州立大学	6名	2

成果 研修先が発行する授業参加状況や成績証明書、事前研修や成果報告への取組状況を総合的に評価し、担当教員の報告に基づいて、コミュニケーション学部海外研修運営委員会が評価した結果、参加者に単位が付与され、英語運用能力と異文化対応能力、メディアを利用した表現・発信力を身につけることができた。

【全学部全学科】 (国際コミュニケーション学科は除く)

派遣の目的	名称	概要(教育研究内容等)	実施方法	実施期間(出発～帰国)	実施国	実施先	参加人数	単位数
英語・中国語の実践的語学力の習得、グローバルビジネスで活躍できる能力の習得。	グローバルキャリアプログラム	語学・専門研修を行い、最後の2週間は現地の企業などでインターンシップを実施する。	現地派遣	2024年8月10日(土)～12月15日(日)	オーストラリア	ウーロンゴン大学	11名	20
			現地派遣	2024年9月10日(火)～2025年1月13日(月)	中国	上海外国語大学	4名	20

成果 (オーストラリア) 研修期間中、毎月1回(計5回)マンスリーレポートを提出する。研修終了後の2025年1月6日(月)までに研修成果報告書を提出する。
また、2週間のインターンシップを行い。充実したインターンシップが行われ、単位を取得した。
(中国) 研修期間中、毎月1回(計4回)マンスリーレポートを提出する。帰国後1月20日(月)までに研修成果報告書を提出する。
2025年1月初旬期末試験を受験する。この結果、単位を取得した。
両国とも、海外研修20単位とは別に 1期9単位 2期3単位の事前事後学修の単位取得により、英語・中国語の実践的語学力の習得、グローバルビジネスで活躍できる能力を習得することができた。

コミュニケーション学部国際コミュニケーション学科
2024 年度「海外短期研修」成果報告（実施後アンケート結果）

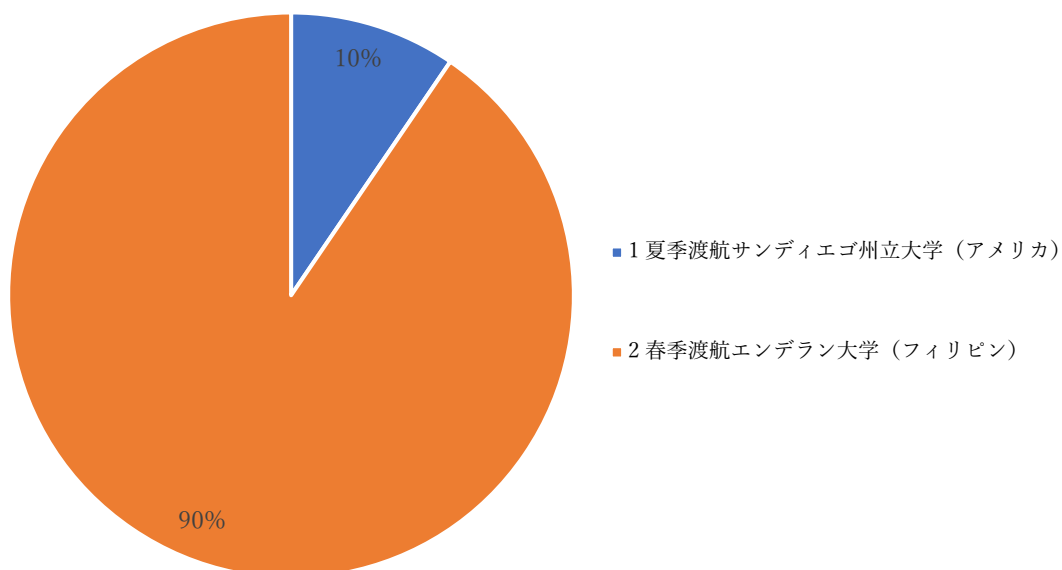
【研修概要】

1. 「海外短期研修（アメリカ）」
研 修 先：アメリカ（サンディエゴ）
期 間：2024 年 8 月 13 日（火）～9 月 16 日（月）
参加人数：6 名
2. 「海外短期研修（フィリピン）」
研 修 先：フィリピン（マニラ）
期 間：2025 年 2 月 2 日（日）～2 月 22 日（土）
参加人数：21 名

【実施後アンケート】

調査対象：2024 年度「海外短期研修」参加者 27 名（アメリカ 6 名、フィリピン 21 名）
調査実施期間：2025 年 2 月 24 日～2 月 27 日
回 答 数：21 件
回 答 率：77.7%

設問 1：あなたが参加した研修はどれですか



設問2：今回の研修先での授業で得られた成果について、具体的に教えてください。

(以下、実施後アンケート回答より一部抜粋)

- ・ 英語スピーキング力の向上、異文化理解の深化、コミュニケーション能力の向上
- ・ 今回の研修先の授業で得られたことは、リスニング力の向上・スピーキング力の向上と異文化理解の深化です。まずリスニング力とスピーキング力に関しては、授業形態がマンツーマンとグループなので聞いていないと授業が進まないの、集中して聞いていくごとに自然と聞き取れるようになりました。かつ、マンツーマンではもちろんグループでも常に自分の意見を求められるので、最初はつたない英語で意見を述べていましたが、徐々に文章で伝えられるようになり、自然と言葉も少しずつではありますが出てくるようになりました。異文化理解については、グループの授業の中でフィリピンについて学ぶ機会があり、フィリピンの国家や言語、地域など調べただけじゃわからなかったことをたくさん学ぶことができました。
- ・ 英語のスピーキング力が向上した。特に発音。先生との会話や現地の文化を体験して異文化理解も深まった。
- ・ とりあえずチャレンジしてみようという力や、積極性が身についた
- ・ 個別指導での授業では、先生とのマンツーマンでの3時間のレッスンであり、リスニング力やスピーキング力が大きく養われるレッスンであった。
- ・ フィリピン研修を通じ、異文化理解の重要性を学びました。そして、現地人との会話により英語でのコミュニケーション能力を向上させることが出来ました。また、さまざまな場所に行くことで、現地の人々の温かさに触れ、価値観が広がり、世界への興味が深まりました。この経験を今後の成長に活かしたいです。
- ・ 今回の研修では、英語のスピーキング力とリスニング力の向上を実感しました。特にマンツーマンの授業では、自分の英語力の不足を痛感しながらも、授業を重ねるごとに少しずつ会話がスムーズになり、自分の言いたいことを伝えられるようになりました。最初は単語が思い浮かばず苦労しましたが、単語量を増やすことで少しずつ文章を作れるようになり、最終的には日常会話レベルのやりとりができるようになりました。また、グループ授業では、他のメンバーと協力しながら英語を使う機会が多く、積極的に話すことで英語に対する抵抗感がなくなりました。

設問3：研修期間中の現地での経験から学んだことを、具体的に教えてください。

(以下、実施後アンケート回答より一部抜粋)

- ・ 食文化や宗教、財政についてマンツーマンレッスンの授業を通して様々なことを知ることができた。
- ・ フィリピンは経済格差が大きい国だと街を見たり、実際に交流をしたりしてわかりました。また、時間にルーズである点も日本との違いを感じました。
- ・ 「貧困」についての考え方、日本とフィリピンの文化の違いについて理解することが出

来た。様々な価値観や考え方を受け入れられるようになった。

- ・ 食生活の違いや、価値観の違い。発音の仕方も少し違った。
- ・ 人との距離感が異なり、現地の人々は日本よりもフレンドリーに接してくれました。異文化理解を深め、視野を広げる貴重な経験となりました。
- ・ 現地の人々とスポーツをする機会があり、言葉が通じなくても、スポーツを通じて交流できることを実感し、コミュニケーションの大切さを学びました。フィリピンでの研修は英語力の向上だけでなく、異文化を理解し、日本の当たり前が世界の当たり前ではないことを学ぶ貴重な機会となりました。